

2018年度 公益社団法人 水沢青年会議所

【理事長所信】

【はじめに】

「幸運の女神には前髪しかない」という言葉があります。機会を得てこそ道は切り開かれますが、その機会を活かすには「今」がそうだと常に意識すること、そして時が来たなら思い切って決断し行動することが大事です。頂いた2018年という一年を大きなチャンスの年として捉え、新しいことに前向きに、何事も率先して取り組んでまいります。

周りを見渡すと、地域を盛り上げよう、まちに貢献しようと活動を行う団体は数多くあり、それぞれの団体がそれぞれの方法で課題と向き合っています。現在の社会はIT革命がもたらした発展により、人、物の移動はより加速し、住み暮らす「地域」の捉え方、求められる社会のあり方も複雑化しています。そのような現在において、創始の時代より「修練」、「奉仕」、「友情」の三信条のもと、まちづくり、ひとづくり、そして地域社会への貢献を行なう青年会議所の奥深さと重要性はなおさら大きく、価値あるものであると確信しています。2018年度、「明るい豊かな社会の実現」にむけた社会変革運動を、本質を捉えつつ変化には柔軟に対応しながら、信念と情熱を持って発信していきます。

青年会議所の歴史を振り返ると、いつの時代も様々な問題に立ち向かいまた乗り越えて現在に至っています。伝統を形づくる根本には「革新の連続の後に伝統が残る」というチャレンジスピリッツを持ち、実践を続けてきた青年会議所と地域社会との融合があるように思います。どんな時代でも、文化を引き継いでいく為に変えない決意と、豊かな未来の為に変える勇氣、そしてそれを峻別する知恵と情熱が必要になります。

昨年は公益社団法人水沢青年会議所創立55周年、インディアン旗野球大会が60回を迎え、また東北青年フォーラムin奥州大会を主管として開催させて頂くなど、多くの節目の年になりました。ここまで長い歴史と伝統を繋いでこられた諸先輩方へ敬意を表すとともに、これまで続けてきた運動を、温かくそして力強く支えて頂いたすべての方に感謝を忘れずに進んでまいります。

私たちは、未来の地域社会を担うリーダーを育成する青年団体として、賑わいや魅力あるまちの発展、新たな時代を担う自立した個性豊かな子どもたちを育むための運動を発信する最前線にいたいと考えています。その中で、ただ新しいことを始めるのではなく、今までの歴史と伝統を引き継ぎつつ新たな魅力を発信していくことが、地域に必要とされる青年団体として会が存続・発展していく上で大切だと考えています。

地域変革運動を行なう、20歳から40歳までの青年経済人の集まりである青年会議所の最大の強みは、その若い情熱と、幅広い年齢層からもたらされる新しい発想や行動力です。世代間の様々な意見を取り入れ、時代に即した、未来を見据えた運動を発信できる団体として、これまでのチャレンジの連続の中で培った多くの経験を活かしていきます。

「未来に先回りして点と点を繋げてみることはできない、できるのは過去を振り返って繋げることだけだ。だからこそ、いつか点と点が必ず繋がっていくと信じなければならない」

これはアップル創立者の一人スティーブ・ジョブズがスタンフォード大学の卒業式で行った祝賀スピーチの一節です。青年会議所の運動は単年度制ということで不連続の連続とも呼ばれます。運動の担い手として「明るい豊かな社会の実現」という理想に向かって今年一年、歩みを進めてまいります。そして、2018年度は、まちづくり・ひとづくりをさらに前進させ、かつ未来に向けて発展していく会のあり方を模索していくことで、さらに先の未来から振り返ったときに、かけがえのない点だったと思える一年にしましょう。

良い時も悩んだ時も、一人のときも仲間といるときも、成功も失敗も、すべてを糧として共に一年間邁進していきます。

【スローガン】

ATTACK CHANCE！

時代の先駆者として機会を活かそう！

【基本理念】

ビジョンを持ち複眼的な視点で

魅力溢れる奥州を創造しよう

そして自分自身も楽しみ、成長しよう

【基本方針】

- ・ 人が集い、気持ちに触れ合う事業
- ・ 地域に必要とされる奥州インディアン旗野球大会の開催
 - ・ 生きる力を育む青少年育成事業
- ・ 未来を見据えた広域的なまちづくり運動の推進
 - ・ 魅力ある会の運営を基盤とした会員拡大
 - ・ 会員の資質向上および組織力強化
 - ・ 価値と魅力を効果的に伝える広報活動

・人が集い、気持ちがあふれあう事業

交通網が整備され都市へも気軽に行けるようになった時代を経て、今はインターネットの普及で手のひらのスマートフォンの中でほとんどの用事が済む時代になりました。移動もせず、人と直接関わらなくても困らず暮らしていけるようになった今の時代は「個」の時代とも呼ばれます。鉄道や道路の発展はまちの輪郭を大きく変えましたが、この新しい発展は生活をより便利にする反面、今までのまちにあった、身近な人とのコミュニケーションを見えにくく変えようとしています。しかしながらそんな「個」の時代においても昨年開催した奥州ビッグバンフェスタではまちの賑わい、気持ちのふれあいを身近に感じることができ、多くの楽しかったという喜びの声をいただきました。

隣人を身近に感じることがまちという共同体を意識する基本です。昨年の事業から私たちはまちづくりのヒントを得ることができました。お肉はネットやスーパーでも買えましたし、イベントはテレビでも見られるものでもありました。それでも多くの方が実際に足を運び一日を楽しむなかで、来場者、スタッフ共に声を掛け合い、にぎわいが生まれました。まちには人と人が通じ合い共感し合える場としての一面もっています。

物が満たされ、生活は日々便利になっていきますが、人の心はそれだけで満たされません。人は人との出会いや気持ちの交流があつて満たされ、分かり合い繋がり合うことで幸せを感じられるのではないのでしょうか。いくら生活が便利になっても心の充足を得られなければ幸福とは呼べません。私たちが目指す「まち」とはそんな集う人たちの気持ちが触れ合うまちです。そしてこの時代だからこそ求められる、人が集い、気持ちがあふれあう事業を構築してまいります。

・地域に必要とされるインディアン旗野球大会の開催

インディアン旗野球大会は昨年60回を迎えました。地域コミュニティの活性化と青少年の健全育成に寄与する大会として開催されてきたこの大会ですが、児童数の減少、スポーツ選択の多様化などにより、近年参加チーム数は減少を続けています。しかしながら、地域の大人と子どもたちとの関わりが薄くなっているこの時代において、同じ地域コミュニティの年齢の異なる子どもたち同士が共に目標に向かって力を合わせて取り組み、協調性やコミュニケーション能力、思いやりを学べるインディアン旗野球大会の取り組みは意義あることであり、これからも続けていくべき大会であると確信しております。地域の大人と子どもたちがひとつの目標に向かって力を合わせて取り組む、その中で人間関係や礼節を学び社会で生きる力を育んでいく、そんな地域コミュニティの基盤として求められる大会を本年も構築してまいります。

・生きる力を育む青少年育成事業

次代を担う子どもたちはまちの未来そのものです。価値観の多様化が進み、子育てにも様々な考え方、手法が実践されています。そして子どもたちはインターネットによって多くの情報をどこにいてもすぐに手に入れることができる環境があります。しかし親子や同世代だけでなく、他者や異なる世代との交流、または自然の中で遊んだり冒険したりする機会は少なくなっています。こうした外や自然の中で集団の中で学び遊ぶ機会は人と関わる技術やコミュニケーション能力、対人関係能力を育てる重要な場面であり、この経験不足は社会に出てからの成長の機会を奪うことにも繋がります。

「人は人によって人になる」という言葉がありますが「生きる力」とはまさに人と人との関わり合い、そこで得る学びのなかで培われる豊かな人間性です。集団行動は人間関係の修練の場です。自分の意見をはっきりと伝え、また相手の意見もしっかり聞く。その上で思いの違いや相違を受け入れること、また共感の喜びなどを分かち合うことが成長に繋がります。

未来のまちづくりの担いを受け継ぐ子どもたちに、将来の大人社会で生きていくためのトレーニングの場を創出し、実際の活動体験の中で得られる自主性ややる気、他者を理解し思いやりを育む基盤となる事業が必要とされています。

地域への愛郷心と心身の健全な育成を行なってきましたひとつづくり事業ですが、本年度はいままでの経験を活かしつつ、新しい挑戦を加えさらによりよい事業として取り組んでまいります。

・未来を見据えた広域的なまちづくり運動の推進

住み暮らす人の多様化に目を向けてみると、ライフスタイルの変化が顕著に現れています。奥州市の人口は、平成27年国勢調査の結果を見ると11万9千人と12万人を割り込むとともに人口減少率は県平均よりも高く、高齢人口の割合も高くなっています。他の地方都市と同様に経済の停滞や少子高齢化・若者の流出による人口減少など多くの問題を抱えています。また、「経済効率性追求の破綻」や「グローバル化」の進展による「格差社会」、加えて過疎化や情報化が進む社会の中で「価値観・ライフスタイルの多様化」はさらに加速していくと考えられます。

人が夢と希望を描けるまちづくり運動は、青年としてのアイディアと情熱を持って私達青年会議所が取り組んでいかなければならない課題であり、まちの魅力を最大限に発揮するためには様々な人々との繋がりを構築し、広く意見交換を行い、多くの声を聴き集約することが必要です。未来を見据えた広域的なまちづくり運動を行なうにあたり、行政や他団体ともビジョンを共有しながら連携推進を進めてまいります。

・魅力ある会の運営を基盤とした会員拡大

青年会議所運動を行っていく上で会員こそが基盤です。会員拡大はそのまま発信力の強化につながります。青年会議所に魅力を感じてもらうにはどうすればいいのか、どんな崇高な理念を掲げた組織だとしてもその魅力が伝わらなければ人材が集うことはなく、組織は衰退していくことでしょう。私自身青年会議所に入会したのは当時多くの魅力ある先輩方がいたからであり、また行っていた活動に共感したからにほかなりません。限りある時間の中でその先輩方、仲間たちと切磋琢磨することで成長できるのではないかと、充実した時間と経験が得られるのではないかと、そう思えたからこそ入会したのであり、その魅力こそが会員拡大の要であります。組織の魅力である「人」と「事業」、この2つを人的ネットワークの拡充やお祭りやイベントへの参加協力などさまざまな交流を通じて発信し、輝かせていくことで多くの仲間を募り5年後10年後の水沢青年会議所を担う会員拡大を行ってまいります。

・会員の資質向上および組織力強化

全国的に会員数が減少する中、水沢青年会議所もここ数年で多くの会員が卒業を迎えています。特に長年に渡って水沢青年会議所を支えてこられた経験豊かな会員が多く卒業を迎えたことで、本年度は3分の2以上の会員が入会歴5年未満でのスタートとなります。その中で伝統を引き継いでいく新たな組織体制を構築していく上で将来の水沢青年会議所を担うリーダーの育成が急務です。

青年会議所の特徴の一つに確立した運営方法が挙げられます。委員会が議案を精査し理事会に上程し理事会で「背景」、「目的」、「手法」、「効果」、とさらに精査を重ね、よりよい事業を全体の総意で作り上げていく。終了した事業に対してはしっかりと「検証・評価」をし、「改善」した上で次に繋げていく。このPDCAサイクルを徹底して行なう組織基盤は青年会議所として引き継いでいかなければなりません。理事経験の浅いメンバーが多くいる中、新年初顔合わせや卒業式といった式典の開催や、勉強会やセミナーの開催、運営を通じて、組織力を強化し、委員会・理事会といった運営の土台を構築していく必要があります。

私たちは青年会議所の外に出ればそれぞれの会社や地域・年代のリーダーとして働く機会も多くあります。青年会議所での経験をもとに実社会でも頼られ信頼される力あるリーダーシップを身につけるためにも、5年後10年後も変わらぬ水沢青年会議所として有り続けるためにも会員の資質向上に取り組めます。

・魅力を効果的に伝える広報活動

いくら魅力ある運動を行ったとしてもそれが広く、そして正しく発信されなければ効果は限定的です。私たちの運動を進化させていくために、水沢青年会議所の日々の活動を地域の人に伝え、興味を持っていただけるように広報誌「築く」の刊行、またWEBページ・SNSを使った効率的、効果的な情報発信を行ってまいります。また、さまざまなインターネットツール

の登場により一方的に発信するだけでなく、多くの意見を広く、効率的に集められるようになりました。このメディアが持つ双方向性を活かし、市民の方とより身近にコミュニケーションをとりながらより水沢青年会議所を身近に感じてもらう広報活動を行い運動への理解、広がりにつなげていきます。

【むすびに】

2012年度に私は水沢青年会議所に入会しました。入会以前に参加した事業が楽しく、魅力ある先輩方との活動にも期待を感じたことを覚えています。あれから今日まで青年会議所での活動、運動を通じて多くの出会い、気づき、成長の機会を得ることができました。青年会議所は人との出会いだと言われることがありますが、まさに人との出会いに導かれたように感じています。

チャレンジとは実を結ぶ確率が決して高くないものに挑むことだと言えますが、評論家的に考えるならば失敗に賭ければだいたい当たることとなりますから、無理だ、できっこないという意見は正しい態度かもしれません。しかし、少ない確率でも挑む気持ち、そして失敗を恐れず歩みを進めることこそが社会を変える原動力そのものであり、不可能を可能にし、未来を変革するただ一つの方法です。高い壁や時に起きる失敗も仲間とともに、時代の先駆者の気概を持ち果敢に進んでいきましょう。そして水沢青年会議所の運動をよりよく前進させ、その歩みの中で私たち自身も大きく成長していける一年にすると共に、2018年度を新しい取り組みを生み出す年にしましょう。

その一歩を最高の仲間と踏み出せることに期待感でいっぱいです。どうぞ一年間よろしくお願い致します。